

あしがら農の会

通信 7月号

第123号

2012年 7月3日発行

発行

NPO 法人 あしがら農の会

ホームページ

<http://nounokai.com/>

代表 松本 邦裕

090-1735-3748(携帯)

編集

石井 智子 0465-32-1467(TEL/FAX)

bombalurina@savanna.dti.ne.jp

地場 旬 自給

あしがら農の会はあしがら地域に様々な循環を作りたいとの思いから、地場、旬、自給を掲げて、1993年に設立されました。(2003年にNPO法人化)
地域の中の休耕地を借りて自給のための米作りから始まった会は、現在以下のような活動を行っています。

農産物の宅配: 会に賛同する野菜の生産者と、地域で自給の為の野菜の作り手が集まって、無農薬・無化学肥料栽培の野菜宅配を行っています。(その他、米、お茶、果実、卵、鶏肉、豚肉などもあります)

田んぼの会: 現在約100家族以上が、あしがら平野の13カ所で自給用の稲を育てています。

お茶の会: 山に戻ってしまうお茶畑を、市民で手入れできないかと始まりました。5月には参加者約100名が、各自1年分のお茶を摘み取ります。

大豆・味噌の会: 大豆は7月に苗作りから始まり、11月に収穫します。その大豆と、各自が田んぼの会で作っているお米で、1月には麴づくりから味噌作りを行っています。

小麦の会: 月1キロの小麦の自給を目指します。

その他、四季折々の行事を行っています。関心のある方はどなたでも参加できます。

有機の仲間たち 其の七

おだわら農人めだかの郷

2012年1月、一般社団法人おだわら農人めだかの郷がスタートしました。桑原・鬼柳地区の田畑を荒らさないように、余力のある地元の農家が中心になって、担い手のいない休耕地を借りて、稲作や野菜栽培に取り組んでいく組織です。私は7年前に退職し、父から農業を受け継ぎました。現役時代も休みの日は80アールの水田でトラクターやコンバインや田植え機を駆って手伝いをしてきました。

トラクターに乗って耕耘作業をしながら周囲を見渡すと、西は箱根・富士、北は丹沢山系、東は曾我丘陵の眺めが何とも素晴らしく、気分転換の効果抜群でした。

桑原地区の農地はおよそ30ヘクタール、生産組合に加入している世帯が約60戸、平均50アールの小規模農家の集落です。農業経営が成り立つ地域ではありません。しかし、兼業で農業を続けていくには、逆に適当な規模かもしれません。桑原の農家は、会社勤めや職人さん、農業以外の自営業などほとんどが兼業です。

さて、定年退職を迎えると、時間的な余裕が生まれるので、耕作地を増やすことが可能となります。こうした仲間が集まり、協力しながら引き受けていけば、

農地の荒廃を避けることができると考えたわけです。そして、次に続く退職予備軍と情報の共有化を図り、この地域の農業のあり方を考え、バトンを渡していけば、農業は永続していくことができます。

そして、法人設立のもう一つのキーポイントは、「桑原めだか米の会」の活動です。山田純さんが酒匂川の水で育ったお米のブランド化に取り組み、顧客を開拓してくれました。弥生時代、江戸時代・・・と平地稲作の歴史を紐解いて、先祖の営みに思いを馳せ、コメ作りの根っこのところをしっかりと意識付けすることができた点が最大の貢献だと感謝しています。この法人は、そうした歴史を学ぶ場としても位置付けていきたいと思っています。

最後に、農家と市民の協同の仕組み作りです。桑原・鬼柳地区の美しい農業景観とめだかなど貴重な動植物に恵まれた豊かな生態系を保全するには市民の皆さんの力が不可欠です。初年度は水田と畑を合わせておよそ1.5ヘクタールの耕作をすることになりました。幸い、法人の設立趣旨に賛同して、農地の草取りや畦や水路の管理などを担ってくれる市民有志の方々が参加してくれることになりました。こうした方々とうまく連携して楽しくやっていきたいと思っています。

一般社団法人

おだわら農人めだかの郷

澤地光春

